

平成16年4月28日

各位

株式会社 UFJホールディングス
(コード番号 8307)

平成16年3月期業績予想および連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社が昨年11月25日の中間決算発表時に公表した平成16年3月期(平成15年4月1日~平成16年3月31日)の業績予想および連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成16年3月期業績予想

(単位:億円、%)

	営業収益	経常利益	当期純利益
前回予想 (平成15年11月)	200	160	160
今回予想 (前回予想額対比)	204 (4)	165 (5)	106 (54)
増減率	2.0	3.1	33.8

【修正の理由】

当社が保有する海外子会社株式に対し減損処理が実施されたことに伴い、特別損失が発生したために、当期純利益が前回予想比減少する見込みです。

2. 平成16年3月期連結業績予想

(単位:億円、%)

	経常収益	経常利益	当期純利益
前回予想 (平成15年11月)	22,000	2,000	2,100
今回予想 (前回予想額対比)	25,660 (3,660)	980 (1,020)	780 (1,320)
増減率	16.6	51.0	62.9

【修正の理由】

当社銀行子会社における業務は堅調に推移し、経常収益は前回予想を上回る見込みですが、貸出金償却など最終処理に係る費用や最終処理を見越した貸倒引当金の繰入れなどの与信関連費用が3,000億円強増加したことを主因とし、経常利益並びに当期純利益が前回予想比減少する見込みです。

なお、平成16年3月期期末配当につきましては、前回予想どおり、

普通株式 1株当たり2,500円

優先株式 所定の金額

となる見込みです。

連結業績予想の概要

(単位：億円)

		傘下子銀行単体合算計数		
		UFJ銀行 + 2分離子会社(*1)	UFJ信託銀行 + 分離子会社(*2)	合計
実質業務純益(*3)	1	7,060	860	7,920
株式関係損益(*4)	2	3,050	220	3,270
経常利益	3	370	310	680
当期純利益	4	920	330	1,250
与信関連費用(*5)	5	7,750	380	8,130
当社単体・連結対象会社(*6)利益等	6			470
当社連結当期純利益 = +	7			780

- (*1) 2分離子会社とは、UFJストラテジックパートナー株式会社(UFJSP)および株式会社UFJエクイティインベストメンツ(UFJEI)をいう
- (*2) 分離子会社とは、UFJトラストエクイティ株式会社(UFJTE)をいう
- (*3) 一般貸倒引当金繰入前業務純益
- (*4) 株式等売却益、株式等売却損および株式等償却(いわゆる「株式3勘定」)の合計
- (*5) 一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額 + 償却債権取立益(UFJ信託銀行は銀行勘定・信託勘定合算)
- (*6) 傘下子銀行(UFJ銀行、UFJSP、UFJEI、UFJ信託銀行およびUFJTE)単体を除く当社連結対象会社

【解説】

実質業務純益(1行目)

子銀行2行合算(傘下子銀行単体合算計数)の実質業務純益は、約7,920億円と見込んでおります。当初予想比増加の要因は、各業務が堅調に推移したことや非金利収入が増加したことが挙げられます。

株式関係損益(2行目)

株価の上昇に伴い、株式等売却益が増加したことや株式等償却が僅少であったことにより、2行合算で3,270億円の利益となるものと見込んでおります。

経常利益(3行目)

株式関係損益・不良債権処理額を除く臨時収支として、約1,580億円の損失を見込んでおります。これには、退職給付債務に関する費用(約340億円)、保有株式のヘッジに係る損失(約350億円)、保有株式につき投資損失引当金を計上したことによる損失(約520億円)等が含まれております。その結果、経常利益(3行目)は約680億円となる見込みです。

当期純利益(2行合算)(4行目)

東京都外形標準課税還付(約250億円)、退職給付信託設定益(約400億円)、償却債権取立益(約540億円)、貸倒引当金等の戻入れ益(約260億円)など、特別損益として約910億円の利益が計上される見込みです。その結果、当期純利益は1,250億円となる見込みです。

与信関連費用(5行目)

2行合算で約8,130億円となり、当初予想比3,000億円強の増加となる見込みです。貸出金償却や債権流動化等により不良債権最終処理を進める一方で、今後さらにこれを促進するために、大口先に対して約5,200億円の貸倒引当金を積み増しております。

当社単体・連結対象会社利益等(6行目)

UFJSP、UFJEIを除く連結対象会社の業績は全般的に堅調に推移したものの、UFJ銀行およびUFJ信託銀行が保有するUFJつばさ証券株式会社の株式を当社へ売却したことをはじめとするグループ内取引の連結決算上の相殺消去が発生し、470億円となる見込みです。

以上より、当社連結当期純利益(7行目)は780億円と予想しております。

また、自己資本比率は、当社連結で10%台後半、UFJ銀行連結で10%台前半、UFJ信託銀行連結で12%台前半(国際統一基準では12%台後半)と見込んでおります。

金融再生法基準債権の状況 (見込)

【2行合算】(UFJ銀行、UFJストラテジックパートナーおよびUFJ信託銀行の合算)

(単位 億円、%)

		平成15年3月末			平成15年9月末			平成16年3月末 (見込)		
		与信額	引当率	開示債権額	与信額	引当率	開示債権額	与信額	引当率	開示債権額
正常先債権	1	384,871	0.2%		372,040	0.2%		390,400	0.2%	
その他要注意先債権	2	42,272	4.5%		38,420	5.4%		28,500	5%	
要管理先債権	3	36,558	29.9% (52.6%)	25,359	29,086	30.5% (52.9%)	21,165	27,300	35% (53%)	21,700
危険債権	4	12,080	73.7% (85.9%)	12,080	12,180	54.1% (73.9%)	12,180	14,800	66% (81%)	14,800
破産更生等債権	5	4,195	100.0%	4,195	3,732	100.0%	3,732	3,000	100.0%	3,000
金融再生法開示不良債権額	6			41,635			37,079			39,500
総与信額に占める比率 (€ /)	7			8.7%			8.1%			8.5%
総与信額 (= + + + +)	8	479,978		479,978	455,461		455,461	464,100		464,100
要管理先債権以下合計 (€ + +)	9	52,833			44,999			45,100		
総与信額に占める比率 (€ /)	10	11.0%			9.9%			9.7%		
その他要注意先債権以下合計 (€ + + +)	11	95,105			83,419			73,600		
総与信額に占める比率 (€ /)	12	19.8%			18.3%			15.9%		

- (注) 1. 要管理先債権の開示債権額とは「要管理債権」のことをいう
 2. 要管理先債権、危険債権および破産更生等債権の引当率は非保全額に対するもの
 (なお、要管理先債権、危険債権の引当率の下のカッコ内は引当金に担保・保証等を加えた保全率を示す)
 3. UFJ信託銀行の計数は銀行勘定・信託勘定の合算

【解説】

金融再生法開示不良債権額 (6行目)は、平成15年9月末比約2,400億円増加し、約3兆9,500億円となる見込みです。その結果、総与信額に占める比率 (7行目)は8.5%となる見込みです。

しかしながら、対象債権を要管理先債権 (9~10行目)もしくはその他要注意先債権 (11~12行目)を含む広義の問題債権といったカテゴリで見た場合、総与信に占める比率は、それぞれ9.7%、15.9%と、平成15年9月末より改善する見込みです。

一方、正常先債権の総与信に占める比率 (8.1%)は、平成15年9月末 (8.7%)より増加する見込みであり、与信ポートフォリオ全体は改善しつつあります。

また、今後、企業の再生・支援を含めた不良債権の最終処理の一層のスピードアップを図るべく、下期に追加的な引当を実施いたしました。これにより、要管理先債権 (9行目)に対する引当率、および、危険債権 (4行目)に対する引当率も、平成15年9月末比でそれぞれ、5%程度、12%程度上昇しております。

このように、当グループの重要課題である資産の質の改善に向けて、一定の成果が表れてきており、引当金積増しにより、今後の不良債権の最終処理促進のスピードアップを図って参ります。